

博士論文（要約）

論文題目　　一七～一九世紀朝鮮の
周縁的社会集団に関する研究
——朝鮮戸籍大帳と僧・白丁——

氏　　名　　山内　民博

目次

はじめに	1
一 本論の視角	1
二 朝鮮戸籍研究と僧・白丁	3
三 本論の課題と構成	8
第一章 一九世紀戸籍大帳の戸口把握と周縁的社会集団——慶尚道安義県戸籍大帳の基礎的分析——	15
一 安義県戸籍大帳の概要	16
二 戸口の把握	21
1 戸口の推移と戸の構成	21
2 戸主の把握	25
3 妻の把握と類別	29
4 奴婢の記載	33
三 戸主職役と村・寺庵	36
1 長水寺属庵と霊覚寺	36
2 幼学戸分布からみた村の特徴	39
3 柳器匠村の諸相	44
四 都已上条の職役記載	46
1 都已上条戸口数の性格	46
2 都已上条職役記事	49
3 巫夫・巫女の諸相	53

小括 56

第二章 朝鮮時代前期の僧・柳器匠に対する把握——一五〇一六世紀——

一 一五〇一六世紀における僧把握の様相 69

1 僧徒録籍 69

2 僧人号牌 71

3 黙齋日記のなかの寺と僧 76

二 一五〇一六世紀における柳器匠および皮匠・白丁把握の様相 82

1 柳器匠の系譜 82

2 禾尺・白丁に対する把握 86

3 黙齋日記のなかの白丁と柳器匠・皮匠 95

小括 100

第三章 一七世紀の戸籍大帳と僧・柳器匠・皮匠…………… 113

一 一七世紀初戸籍大帳の戸口編成 113

1 山陰県一六〇六年戸籍大帳 114

2 蔚山府一六〇九年戸籍大帳 119

二 五家統法施行後の戸籍大帳の構成と戸の編成 125

1 肅宗初年の戸籍制度改革 125

2 丹城県一六七八年戸籍大帳 127

3 大丘府一六八一年戸籍大帳 130

4 蔚山府一六八四年・一六八七年戸籍大帳 131

三 柳器匠・皮匠戸口記載の特徴 133

1 柳器匠・皮匠の記載書式 133

	2	柳器匠・皮匠の祖先系譜	138
四		寺庵戸口記載の特徴	140
	1	僧戸	142
	2	居士戸その他	148
五		都已上条における僧・柳器匠・皮匠	150
小括			153
第四章		柳器匠・皮匠の周縁化——一八〇一—一九世紀——	163
一		記載書式の変化	163
	1	良賤記載の変化	163
	2	柳器匠・皮匠の良賤記載	168
	3	柳器匠・皮匠妻の記載	172
二		都已上条の変化	181
	1	一八世紀前半の都已上条	181
	2	一八世紀後半以降の都已上条	185
小括			189
第五章		柳器匠・皮匠の役・生業・組織と社会的位相——一八〇一—一九世紀——	195
一		柳器匠・皮匠の役と生業	195
	1	柳器匠・皮匠の官衙納入品	196
	2	負担の形態	203
	3	慶尚道永川郡の白丁・屠漢集団の役	205
	4	役からみた柳器匠・皮匠の生業	209
二		屠牛と屠漢	211

	1	朝鮮時代後期屠牛の様相	211
	2	牛禁と官庖の登場	214
	3	官庖・場市貿販・私庖	216
	4	庖厨と屠漢	225
		【補論】漢城および咸鏡道北部地域における屠牛	227
三		柳器匠・皮匠・屠漢集団の様態	230
	1	慶尚道安義県の柳器匠集団の親族・婚姻関係	230
	2	忠清道公州牧の屠漢集団の性格	235
四		柳器匠・皮匠・屠漢への視線——結びにかえて	238
第六章		寺庵と僧・居士・舎堂——一八〇—一九世紀——	263
一		戸籍大帳上の寺庵	264
	1	寺庵の推移と配置	264
	2	寺庵内の構成	269
二		僧戸の編成とその特徴	271
	1	僧戸主の身分と職役	271
	2	僧戸主の記載書式と出自	274
	3	都已上条の僧	278
	4	僧戸の内部構成——僧と上佐	280
三		寺庵・僧の役と公権力	283
	1	寺庵・僧の役	284
	2	寺庵の対応	291
四		寺庵と居士・舎堂	296

1	戸籍上の居士・舎堂	296
2	居士・舎堂の活動と僧	302
小括		307
第七章	一九世紀末の新式戸籍と僧籍・屠漢籍	323
一	戸口調査と新式戸籍	325
二	僧籍・屠漢籍と僧・屠漢の把握	327
1	僧籍の特徴	327
2	屠漢籍の特徴	331
三	僧籍・屠漢籍と一般戸籍との関係	334
四	僧籍・屠漢籍の歴史的 성격	338
おわりに		345
参考文献一覧		351
図表一覧		362

本 文

博士論文本文は学位取得後、5年以内に出版予定である。

参考文献一覧

- ・史料所蔵機関のうち、「ソウル大学校奎章閣韓国学研究院」は「奎章閣」と、「韓国学中央研究院蔵書閣図書館」は「蔵書閣」と略記した。
- ・王朝実録など周知のものは省いた。
- ・研究文献は著者名の五十音順に配列した。韓国語文献は、著者名の日本漢字音によっているものと、ハングルのカタカナ表記によっているものがある。
- ・*を付したものは韓国語の研究文献である。
- ・韓国語研究文献の著者名・タイトル等は、一部、ハングル表記を漢字表記に換えたものがある。
- ・電子データとして示したものは、主として原文の画像ファイルを利用できるサイトアドレスであるが、データベース中には記載内容を整理したファイルを含むものもある。

【史料 戸籍】

- 『蔚山郡各寺刹僧戸籍表』庚子・壬寅・癸卯・甲辰、奎章閣蔵
- 『蔚山郡屠汗戸籍表』戊戌・庚子・辛丑、奎章閣蔵
- 『蔚山郡屠汗戸籍統表』戊戌・庚子・辛丑、奎章閣蔵
- 『慶尚道安義県戸籍大帳』一四冊、学習院大学図書館蔵
- 『慶尚道蔚山府戸籍大帳』（『蔚山戸籍大帳』）五五冊、奎章閣蔵、電子データ：<http://kyujanggak.snu.ac.kr/>（一部）
- 『慶尚道彦陽県戸籍大帳』九冊、蔚山広域市ほか蔵、影印：『慶尚道彦陽県戸籍大帳』上・下、釜山大学校韓国文化研究所、一九八八年
- 『慶尚道山陰県戸籍大帳』二冊（『山陰帳籍』）奎章閣蔵

- 『慶尚道昌寧県戸籍大帳』一五冊、学習院大学図書館蔵
- 『慶尚道大丘府戸籍大帳』（『大邱帳籍』）一八七冊、奎章閣蔵、電子データ：<http://kyujanggak.snu.ac.kr/> および『산대이더베이스 慶尚道大丘府戸籍大帳』成均館大学校東アジア学術院大東文化研究院（一部）
- 『慶尚道丹城県戸籍大帳』一三冊、丹城郷校蔵、慶尚道大学校図書館文泉閣保管、影印：『慶尚道丹城県戸籍大帳』上・下、韓国精神文化研究院、一九八〇年。電子データ：『산대이더베이스 慶尚道丹城県戸籍大帳』成均館大学校東アジア学術院大東文化研究院
- 『慶尚道丹城県戸籍大帳』二五冊、学習院大学図書館蔵、電子データ：『산대이더베이스 慶尚道丹城県戸籍大帳』成均館大学校東アジア学術院大東文化研究院
- 『慶尚南道密陽郡各寺間数僧尼口数成冊』学習院大学図書館蔵
- 『慶尚北道禮泉郡庚子度僧籍』東京大学総合図書館蔵
- 『慶尚北道榮川郡僧徒成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武九年一月日江原道三陟郡各寺僧徒戸籍成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武九年度忠清南道韓山郡僧徒成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武五年一月日金化郡所在水泰寺僧籍成冊』学習院大学図書館蔵
- 『光武七年三月日江原道江陵郡各寺僧徒戸籍』京都大学総合博物館蔵
- 『光武七年三月日江原道春川郡癸卯度僧籍成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武七年三月日江原道春川郡癸卯度屠漢戸口成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武十年三月日黄海道鳳山郡僧屠戸籍冊』宮内庁書陵部図書寮文庫蔵
- 『光武八年一月日楊州郡所在各寺刹主掌僧及外他寄住僧徒録名年兆成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『光武四年二月全羅南道宝城郡屠漢戸籍大帳』学習院大学図書館蔵
- 『全羅北道求礼郡癸卯年各寺刹僧尼戸籍成冊』京都大学総合博物館蔵
- 『忠清南道恩津郡僧籍』京都大学総合博物館蔵

『忠清南道泰安郡各寺僧徒成冊』 京都大学総合博物館蔵
『忠清南道大興郡僧徒籍表』 京都大学総合博物館蔵
『忠清南道唐津郡乙巳条僧徒成冊』 京都大学総合博物館蔵
『忠清南道扶余郡光武九年度僧徒成冊』 京都大学総合博物館蔵

【史料 その他】

『安陰長水寺与龍湫菴創修源流興廃録』 奎章閣蔵
安義郷校蔵「校規節目」 マイクロフィルム：蔵書閣蔵
安義郷校蔵「郷中座目」・「旧郷案」 マイクロフィルム：蔵書閣蔵
『安義県邑誌』 奎章閣蔵
『駅土所関査員實報存档』 奎章閣蔵
『外各府郡公牒摘要』 坤 奎章閣蔵
『葛川集』 (林薫) 影印：『韓国文集叢刊』二八、景仁文化社、一九八八年
『花林誌』 国立中央図書館ほか蔵、影印：『韓国近代邑誌』三三、韓国人文科学院、一九九一年
『完宮各庫事例』 奎章閣蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』八、驪江出版社、一九八七年
『韓溪遺稿』 一、国史編纂委員会編・刊、一九七六年
『関西邑誌』 奎章閣蔵、影印：『邑誌』一五、亜細亜文化社、一九八六年
『畿甸邑誌』 奎章閣蔵、影印：『邑誌』十、亜細亜文化社、一九八五年
『玉溪集』 (盧禎) 影印：『韓国文集叢刊』三七、景仁文化社、一九八九年
『金山直指寺完文』 直指寺蔵、影印：『古文書集成100 金泉直指寺・醴泉龍門寺篇』 韓国学中央研究院、二〇一一年、および『直指寺誌』 (韓国寺誌叢書)、亜細亜文化社、一九八〇年
『金若濟日記』 写本影印：『東学農民戦争史料叢書』3、東学農民戦争

争百周年紀年事業推進委員会編、史芸研究所、一九九六年。電子データ：東学農民革命史料叢書DB db.hiso.kr

『郡報』 蔵書閣蔵、影印：『韓末官人朴始淳日記』 韓国精神文化研究院、一九九九年

『慶尚監啓録』 奎章閣蔵、脱草：『各司騰録』一一、国史編纂委員会、一九八四年

『慶尚道邑誌』 (奎章閣二〇冊本) 奎章閣蔵、影印：『邑誌』一、亜細亜文化社、一九八二年

『慶尚道邑誌』 (国会図書館三七冊本) 国立国会図書館(日本)蔵
『公山誌』 奎章閣蔵、影印：『私撰邑誌』一五、韓国人文科学院、一九八九年

『公州監營邑誌』 蔵書閣蔵。
『公州郡府下各洞五家作統』 京都大学総合博物館蔵

『公州牧獄事査案』 奎章閣蔵、脱草：『各司騰録』四八、一九九一年
『皇城新聞』 影印：景仁文化社、一九八二年

『洪川県三公兄文状』 奎章閣蔵、翻刻：『古文書』七、ソウル大学校図書館、一九九一年

『号牌事目』 奎章閣蔵

『光陽県各所事例冊』 国立中央図書館(韓国)蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』八、驪江出版社、一九八七年

『国内寺刹現行細則』 奎章閣蔵
『戸口総数』 奎章閣蔵、影印：『戸口総数』ソウル大学校奎章閣、一九九六年

『湖西邑誌』 奎章閣蔵、影印：『邑誌』八、亜細亜文化社、一九八五年

『(湖西)邑誌』 奎章閣蔵、影印：『邑誌』九、亜細亜文化社、一九九〇年
『戸籍所騰録』 東京大学蔵 翻刻：武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道丹城県における社会動態の研究(II)』 学習院大学蔵朝鮮

戸籍大帳の基礎的研究(3)——学習院大学東洋文化研究所(調査研究報告三三)、一九九七年
『湖南邑誌』 (二八冊本)、奎章閣蔵、影印：『邑誌』五、亜細亜文

- 化社、一九八三年
- 『古文書集成78 居昌恩津林氏・居昌慎氏篇』韓国学中央研究院、二〇〇五年
- 「全羅道觀察使綾州双鳳寺矯弊節目」奎章閣蔵、翻刻：『古文書』一四、ソウル大学校奎章閣、一九九七年
- 『司畜署事目』奎章閣蔵、翻刻：『古文書』一四、ソウル大学校奎章閣、一九九七年
- 『大丘湧泉寺鐫役節目』奎章閣蔵、翻刻『古文書』一三、ソウル大学校奎章閣、一九九六年
- 『混元集』（杜世煥） 奎章閣蔵
- 『詞訟録』（忠清監營・阿川本）二四冊、東京大学総合図書館蔵（阿川文庫）
- 『詞訟録』（忠清監營・奎章閣本）二二冊、奎章閣蔵
- 『商山邑例』奎章閣蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』九、驪江出版社、一九八七年
- 『尚州事例』国立中央図書館（韓国）蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』九、驪江出版社、一九八七年
- 『佔畢齋集』（金宗直） 影印：『韓国文集叢刊』一二、景仁文化社、一九八八年
- 『宗親府節目』奎章閣蔵、翻刻『古文書』一三、ソウル大学校奎章閣、一九九六年
- 『泰安寺誌』 影印：韓国寺誌叢書、亜細亜文化社、一九八四年
- 『大邱府事例』奎章閣蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』九、驪江出版社、一九八七年
- 『退溪先生統集』・『退溪先生文集別集』 影印：『韓国文集叢刊』三一、景仁文化社、一九八九年
- 『端溪先生文集』慶尚大学校図書館文泉閣蔵、電子データ：http://nh.gsnu.ac.kr/
- 『丹城県誌』 影印：『慶尚道丹城県社会資料集』二、大東文化研究院、二〇〇三年
- 『丹城県邑誌』 翻刻：『慶尚南道輿地集成』慶尚南道、一九六三年
- 『竹樹事例』奎章閣蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』八、驪江出版社、一九八七年
- 『朝鮮寺刹史料』上・下、朝鮮総督府内務部地方局、一九二一年
- 『朝鮮民政資料 牧民篇』内藤吉之助編・発行、一九四二年
- 『独立新聞』 影印：独立新聞刊行会編、景仁文化社、一九八四年
- 『燃藜室記述別集』 翻刻：朝鮮古書刊行会、一九一三年
- 『任実郡事例定録』奎章閣蔵、脱草：『各司臚録』五四、国史編纂委員会、一九九一年
- 『白谷集』（処能） 国立中央図書館（韓国）ほか蔵
- 『八公山桐華寺事蹟』奎章閣蔵
- 『賦役実総』奎章閣蔵、影印：『賦役実総』上・下、驪江出版社、一九八四年
- 『丙申二月日春夏等戸布錢捧上冊』奎章閣蔵
- 『平洗録』奎章閣蔵
- 『謀逆同参罪人柳泰守等推案』奎章閣蔵、影印：『推案及鞫案』二四、亜細亜文化社、一九八四年
- 『奉先本末寺誌』大本山奉先寺出版、一九二七年、影印：韓国寺誌叢書『伝燈本末寺誌・奉先本末寺誌』亜細亜文化社、一九七六年
- 『牧綱』高麗大学校図書館蔵、影印：『朝鮮民政資料叢書』驪江出版社、一九八七年
- 『牧民心書』 校訂訳註：『訳註牧民心書』I-VI、創作斗批評社、一九七九〜八五年
- 『北関紀事』 奎章閣蔵。
- 『民訴草概冊』奎章閣蔵、影印：『韓国地方史資料叢書』二九、驪江出版社、一九九〇年
- 『默齋日記』上・下、国史編纂委員会、一九九八年
- 『良役実総』（一冊本）、奎章閣蔵、影印：『良役実総』驪江出版社、一九八四年
- 『嶺南誌』（阿川文庫本）、東京大学総合図書館蔵
- 『嶺南邑誌』（奎章閣三四冊本）、奎章閣蔵、影印：『邑誌』二・三、亜細亜文化社、一九八二年
- 『嶺南邑誌』（奎章閣一七冊本）、奎章閣蔵、影印：『邑誌』二〇、

亜細亜文化社、一九八二年

『盧尚枢日記』一〇三、国史編纂委員会、二〇〇五年

【研究文献】

鮎貝房之進（一九七三）「白丁・（附）水尺・禾尺・楊水尺」同著『雑

攷 花郎攷・白丁攷・奴婢攷』国書刊行会、原載『雑攷』

五、一九三二年

有井智徳（一九六六）「李朝初期の戸籍法について」『朝鮮学報』三

九・四〇

——（一九八五）「李朝補充軍考」同著『高麗李朝史の研究』国

書刊行会、原載『朝鮮学報』二一・二二、一九六一年

*イ・ウク（이옥）（二〇〇九）『朝鮮時代災難과 国家儀禮』チャンピ

*イ・ジョンズ（이정수）（二〇〇六）「『默齋日記』를 통해 본 地

方 匠人들의 삶』『地域과 歴史』一八

*イ・ハオク（이해옥）（一九九九）「朝鮮前期手工業体制의 整備」

『歴史와 現実』三三

*イ・ヨンスク（이영숙）（二〇〇八）「17世紀後半 戸籍大帳의 僧

侶登載比率에 대한 考察—丹城縣 戊午式年（1578）戸籍

大帳의 栗谷寺를 中心으로」『民族文化論叢』（嶺南大学

校民族文化研究所）四〇

井上和枝（一九八五）「李朝後期慶尚道丹城県の社会変動—学習院大

学蔵丹城県戸籍大帳研究」『学習院史学』二二三

——（一九九七）「丹城邑誌の編纂とその特色」武田幸男編『朝

鮮後期の慶尚道丹城県における社会動態の研究Ⅱ』学習

院大東洋文化研究所（調査研究報告三三）

——（二〇〇二）「朝鮮後期の駅村と駅民—慶尚道晋州牧召村里

戸籍大帳を中心に—」武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道に

おける社会動態の研究—学習院大学蔵朝鮮戸籍大帳の

基礎的研究（4）』学習院大学東洋文化研究所

——（二〇〇三）「最近の戸籍大帳および戸籍関連研究の動向」

武田幸男編『学習院大学蔵朝鮮戸籍大帳等目録—学習院

大学蔵朝鮮戸籍大帳の基礎的研究（5）』学習院大学東洋

文化研究所

——（二〇〇四）「朝鮮戸籍の制度・作成・内容」東洋文庫東北

アジア研究班（朝鮮）『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』

東洋文庫

今村頼（一九一五）『朝鮮風俗集』斯道館

*尹用出（一九九八）『朝鮮後期の 徭役制와 雇傭労働』ソウル大学校

出版部

*尹熙勉（一九九〇）『朝鮮後期郷校研究』一潮閣

押川信久（二〇〇二）「朝鮮王朝建国当初における僧徒の動員と統制」

『朝鮮学報』一八五

——（二〇〇六）「『経国大典』度牒発給規定の成立」『年報朝

鮮学』九

——（二〇〇七）「朝鮮成宗代の度僧法存廃論議」『朝鮮学報』

二〇三

——（二〇〇九）「朝鮮燕山君・中宗代における僧徒政策の推移

—度牒発給の再開と廃止を中心として」『朝鮮史研究会

論文集』四七

——（二〇一〇a）「朝鮮中宗代後半における僧徒管理体制の再

構築—号牌の発給を中心として」『史淵』一四七

——（二〇一〇b）「朝鮮初期の尼僧管理問題—王室・王都の状

況を中心として」『朝鮮学報』二一五

——（二〇一一）「朝鮮明宗代の僧徒政策」『史朋』四四

——（二〇一五）「朝鮮中宗代中葉以降における僧徒の行状をめ

ぐる論議」『朝鮮史研究会論文集』五三

——（二〇一六）「朝鮮明宗代における地方寺院の組織運営—李

文健『默齋日記』の分析を中心に」『仏教史学研究』五

九一—

- * 韓栄国 (二九七七) 「朝鮮中葉の奴婢結婚様態(上)」 『歴史学報』 七五・七六
- * — (二九七八) 「朝鮮中葉の奴婢結婚様態(下)」 『歴史学報』 七七
- * — (二九八一) 「『豆毛岳』考」 『韓沽勳博士停年紀念史学論叢』 知識産業社
- * — (二九八五a) 「朝鮮王朝戸籍の基礎的研究」 『韓国史学』 六
- * — (二九八五b) 「朝鮮後期の挾人・挾戸―彦陽県戸籍大帳の挾人口言中心―」 『千寛宇先生還曆紀念韓国国史学論叢』 正音文化社
- * 韓相吉 (二〇〇六) 『朝鮮後期仏教と寺刹契(朝鮮後期仏教と寺刹契)』 景仁文化社
- * 姜万吉 (二九八四a) 「王朝前期白丁の性格」 同著『朝鮮時代商工業史研究』 한길사, 原載『史学研究』 一八、一九六四年(原題「鮮初白丁考」)
- * — (二九八四b) 「王朝前期の官匠制と私匠」 同著『朝鮮時代商工業史研究』 한길사, 原載『史学研究』 一六、一九六一年(原題「朝鮮前期工匠考」)
- * — (二九八四c) 「王朝後期、分院の運営実態」 同著『朝鮮時代商工業史研究』 한길사, 原載『亜細亜研究』 二〇、一九六五年(原題「分院研究―17、8世紀朝鮮王朝官営手工業体の運営実態」)
- * 김·인규 (二〇〇三) 「朝鮮明宗代星州地域の寺刹の製紙活動」 『伝統文化論叢』 一
- * 김·기윤 (二〇〇三) 「朝鮮後期戸籍大帳の女性呼称規定と性格」 戸籍大帳研究팀 『丹城戸籍大帳研究』 成均館大学大東文化研究院, 原載『歴史와 現実』 四八号、二〇〇三年
- * 김·근우 (二〇〇八) 『近代公文書の誕生』 笑臥堂
- * 金甲周 (二九八四) 「正祖代 南北漢山城 義僧防番銭の半減」 『素軒南都泳博士華甲紀念 史学論叢』 太学社
- * — (二九八五) 「朝鮮後期 寺院經濟の動向―南北漢山城義僧防番銭を中心―」 劉元東博士華甲紀念史学論叢刊行委員會『韓國近代社会經濟史研究』 正音文化社
- * — (二九九二) 「光武年間の僧籍に對する一考―禮泉郡を中心―」 『何石金昌洙教授華甲紀年史学論叢 歴史学の諸問題』 범우사
- * 金炫榮 (二九九八) 「『默齋日記』 解題」 『默齋日記』 下、国史編纂委員會
- * 金建泰 (二〇〇三) 「朝鮮後期戸籍大帳の人口記載様相」 戸籍大帳研究팀 『丹城戸籍大帳研究』 成均館大学大東文化研究院, 原載『歴史와 現実』 四五、二〇〇二年
- * — (二〇〇六) 「戸籍大帳の登載된戸口の性格」 『韓国史研究』 一三二
- * 金三基 (二〇〇六) 『朝鮮時代製紙手工業研究』 民俗苑
- * 金俊亨 (二九九三) 「晋州地域衡平運動の歴史的背景」 衡平運動70周年記念事業會編『衡平運動の再認識』 서울관사(翻譯・晋州地域における衡平運動の歴史的背景 衡平運動70周年記念事業會編・民族教育文化センター訳『朝鮮の身分』 解放運動』 一九九四年)
- 金靜美 (二九八二) 「十九世紀末・二十世紀初期における『白丁』」 飯沼二郎・姜在彦編『近代朝鮮の社会と思想』 未来社
- * 金盛祐 (二〇〇二) 『朝鮮中期 国家와 士族』 歴史批評社
- * — (二〇〇六) 「朝鮮時代の身分構造『變化』 그리고 展望」 韓國古文學學會編『東아시아 近世社会の比較』 圖書出版會安

- *金大吉 (二〇〇六) 「朝鮮後期 牛禁에 関한 研究」 同著『朝鮮後期 牛禁酒禁松禁研究』景仁文化社、原載『史学研究』(韓國史学会) 五二、一九九六年
- *金泰坤 (一九八二) 『韓國巫俗研究』集文堂
- *近代史研究会編 (一九八七) 『韓國中世社会解体期の 諸問題―朝鮮後期史 研究の 現況과 課題―』上・下、한울
- *金仲燮 (一九九四) 『衡平運動研究』민영사
- *金東哲 (一九九三) 「19世紀牛皮貿易과 東萊商人」 『韓國文化研究』(釜山大学校韓國文化研究所) 六
- *金東珍 (二〇〇九) 「朝鮮前期 白丁에 대한 齊民化政策의 成果」 『歷史民俗學』 二九
- *—— (二〇一一) 「1528年 安東 府北 周村戶籍 断片에 나타난 狭居 新白丁의 삶」 『古文書研究』 三九
- *クオン・ネヒョン (권내현) (二〇〇三) 「朝鮮後期 戶籍의 作成過程에 대한 分析」 戶籍大帳研究팀 『丹城戶籍大帳研究』成均館大学校大東文化研究院、原載『大東文化研究』 三九、二〇〇一年
- *吳永教 (二〇〇二) 『朝鮮後期 鄉村支配政策研究』 혜안
- *吳煥一 (二〇〇〇) 「韓末 白丁에 대한 收奪과 白丁層의 動向」 同著『歷史와 鄉村社会研究』景仁文化社、原載『史学研究』(韓國史学会) 五四、一九九七年
- *吳京厚 (二〇〇五) 「朝鮮後期僧役의 類型과 弊端」 『國史館論叢』 一〇七
- *黃仁奎 (二〇〇五) 『高麗後期・朝鮮前期 仏教界와 高僧研究』 혜안
- *戶籍大帳研究チーム (호적대장연구팀) (二〇〇三) 『丹城戶籍大帳研究』成均館大学校大東文化研究院
- 崔弘基 (一九九六) 『韓國戶籍制度史の研究』第一書房(韓國語版)、『韓國戶籍制度史研究』(改訂版)、서울大学校出版部、一九九七年)
- *崔承熙 (二〇〇三) 「朝鮮後期 『幼學』 과 『學生』 의 身分史的意味」 同著『古文書를 통해 본 朝鮮後期 社会身分史研究』知識産業社、原載『國史館論叢』 一、一九八九年
- 四方博 (一九七六a) 「李朝人口に關する一研究」 同著『朝鮮社会經濟史研究(中)』國書刊行會、原載『朝鮮社会法制史研究』京城帝国大学法学会論集第九冊、一九三七年
- (一九七六b) 「李朝人口に關する身分階級的的觀察」 同著『朝鮮社会經濟史研究(中)』國書刊行會、原載『朝鮮經濟の研究第三』京城帝国大学法学会論集第一〇冊、一九三八年
- 嶋陸奥彦 (二〇一〇) 『韓國社会の歴史人類學』風響社
- *車文燮 (一九七三) 「鮮初의 甲士」 同著『朝鮮時代軍制研究』檀大出版部、原載『史叢』 四・五、一九五九年(原題「鮮初의 甲士에 대하여」上・下)。
- *徐吉教 (一九六八) 『朝鮮王朝刑事制度의 研究』韓國法令編纂會
- *徐永大 (一九九八) 「韓國 土着宗教史 研究의 回顧와 展望」 『韓國史論』(國史編纂委員會) 二八
- 吹田和光 (一九七四) 「李朝時代に於ける僧軍について」 『仏教史學研究』 一七一
- 須川英徳 (一九九四) 『李朝商業政策史研究』一八・十九世紀における公權力と商業』東京大学出版會
- *千寛宇 (一九七九a) 「朝鮮初期五衛의 兵種」 同著『近世朝鮮史研究』一潮閣、原載『史学研究』 一八、一九六四年
- *—— (一九七九b) 「朝鮮初期의 国防体制」 同著『近世朝鮮史研究』一潮閣、原載『李相佰博士華甲紀年論集』、一九六四年
- *全昞穆 (二〇一四) 「朝鮮後期 소 屠殺의 真相」 『朝鮮時代史學報』 七〇
- *全信宰 (一九八三) 「居士考…流浪人集團研究、序說」 『韓國의 生活意識과 民衆芸術』成均館大学校大東文化研究院

- * ソ・ホチヨル(서호철) [11007] 「1890-1930年代 住民登録制度와 近代的統治性의 形成—戸籍制度호의 變容과 内部行政을 中心으로」 ソウル大大学院社会科学科博士学位論文
- * 宋賛植 [1973] 『李朝後期手工業에 關한 研究』 (李朝後期手工業に關する研究) ソウル大出版部
- * ——— [1997] 「懸房考」 同著 『朝鮮後期社会經濟史의 研究』—潮閣。原載『韓國學論叢』(國民大大学院韓國學研究所) 六・七、一九八四〜八五年
- * 宋俊浩 [1987] 「朝鮮의 兩班制을 어떻게 理解할 것인가」 同著 『朝鮮社会史研究』—潮閣。原載『全羅文化論叢』一、一九八六年
- * 宋亮燮 [2003] 「18・19世紀 丹城縣의 軍役把握과 運營」 戶籍大帳研究팀 『丹城戶籍大帳研究』 成均館大大学院大東文化研究院、原載『大東文化研究』四〇、二〇〇二年
- * ——— [2004] 「19世紀 幼學戶의 構造와 性格—『丹城戶籍大帳』을 中心으로」 『大東文化研究』四七
- * ——— [2005] 「19世紀 幼學層의 增加様相—『丹城戶籍大帳』을 中心으로」 『歴史와 現実』五五
- * ソン・ソンピル(손성필) [2013a] 「16・17世紀 仏教政策과 仏教界의 動向」 東国大大学院史学科博士學位論文
- * ——— [2013b] 「朝鮮時代 僧侶 賤人身分說의 再檢討—高橋亨의 主張에 대한 批判을 中心으로」 『普照思想』四〇
- * 孫炳圭 [2003a] 「戶籍大帳 職役記載 様相과 意味」 戶籍大帳研究팀 『丹城戶籍大帳研究』 成均館大大学院大東文化研究院、原載『歴史와 現実』四一、二〇〇一年
- * ——— [2003b] 「戶籍大帳 職役記載와 「都已上」의 統計」 戶籍大帳研究팀 『丹城戶籍大帳研究』 成均館大大学院大東文化研究院、原載『大東文化研究』三九、二〇〇一年
- * ——— [2003c] 「18世紀 地方의 私奴軍役 把握과 運營」 戶籍大帳研究팀 『丹城戶籍大帳研究』 成均館大大学院大東文化研究院、原載『韓國史學報』一一、二〇〇二年
- * ——— [2003d] 「朝鮮後期國家的인 身分規定과 그 適用」 『歴史와 現実』四八
- * ——— [2007] 『戶籍 1606-1923 戶口記錄으로 본 朝鮮의 文化史』 휴머니스트
- * ——— [2008] 「明治戶籍과 光武戶籍의 比較研究」 『泰東古典研究』二四
- 高橋亨 [1973] 『李朝仏教』 国書刊行会、初版・一九二九年、宝文館
- 田川孝三 [1964] 『李朝貢納制の研究』 東洋文庫
- 武田幸男 [1963] 「高麗時代の『百姓』」 『朝鮮學報』二八
- [1983] 『學習院大學藏朝鮮戶籍大帳の基礎的研究—19世紀慶尚南道鎭海縣の戶籍大帳を通じて—』 學習院大學東洋文化研究所(調査研究報告一三)
- [1991] 「學習院大學藏の丹城縣戶籍大帳とその意義」 同編『朝鮮後期の慶尚道丹城縣における社会動態の研究(2)』 (1)—學習院大學藏朝鮮戶籍大帳の基礎的研究(2) —學習院大學東洋文化研究所(調査研究報告二七)
- [2006] 「高麗の雜所・雜尺に關する考察」 『朝鮮學報』一九九・二〇〇合輯
- 田代和生 [2007] 『日朝交易と對馬藩』 創文社
- * チェ・ウンジョン(최은정) [1997] 「18世紀 懸房의 商業活動과 運營」 『梨花史學研究』二三・二四合輯
- * 張慶俊 [2006] 「朝鮮後期戶籍大帳의 僧侶登載背景과 그 様相」 『大東文化研究』五四
- * 張志淵 [1906] 「地理三」 『大韓自強會月報』五
- * 趙錫坤 [1990] 「光武年間의 戶政運營體系에 關한 小考」 金鴻

植ほか『大韓帝国期^의土地制度』民音社

朝鮮史研究会編(二〇一)『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会

朝鮮駐劄憲兵隊司令部編(一九二二)『朝鮮社会考』文星社、京城

塚田孝(一九九二)『アジアにおける良と賤—牛皮流通を手掛りとして』『アジアのなかの日本史—アジアと日本』東京大学出版会

出版会

*鄭演植(一九八五)「17・18世紀良役均一化政策^의推移」『韓国史論』(ソウル大)一三

*鄭震英(二〇〇二)「18世紀戸籍大帳・戸外^의經濟的基盤

—1914年大邱租岩坊^의戸籍을中心으로—」『歴史と現実』三九

*——(二〇〇四)「朝鮮後期戸籍資料^의奴婢記載와 그存在様相

—大邱慶州崔氏家所蔵戸籍資料^의分析—」『古文書研究』二五

東洋文庫東北アジア研究班(朝鮮)(二〇〇四)『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』東洋文庫

豊島悠果(二〇一五)「『黙齋日記』にみる十六世紀朝鮮士大夫家の祖先祭祀と信仰」『アジア遊学』一九一

西田信治(一九八四)「李朝軍役体制の解体」『朝鮮史研究会論文集』二二

*パク・ピョンソン(박병선)(二〇〇二)「朝鮮後期願堂研究」嶺南大学校博士學位論文

旗田 巍(一九七二)「高麗時代の白丁」同著『朝鮮中世社会史の研究』法政大学出版局、原載『朝鮮学報』一四、一九五九年

浜中 昇(一九九七)「高麗末期・朝鮮初期の禾尺・才人」『朝鮮文化研究』四

*ハン・ヒスク(한희숙)(一九九九)「朝鮮太宗・世宗代白丁^의生活相斗盜賊活動」『韓国史学報』六

*ピョン・ジユソン(변지승)(二〇〇四)「朝鮮後期流民生存方式^의

一面—僧侶・居士・明火賊集團을中心으로—」『全州史学』九

平木 實(一九八七)『朝鮮社会文化史研究』国書刊行会

——(二〇〇二)「朝鮮時代中宗・明宗代の干魃を巡る天譴意識とその社会」同著『朝鮮社会文化史研究II』阿吡社、原載『朝鮮学報』一三一、一九九〇年

*ペ・ミョンエ(배명애)(二〇〇六)「朝鮮前期僧侶統制策斗^と僧役」『釜山史学』三〇

*朴容淑(一九九四)「朝鮮後期僧役에 대한考察」同著『朝鮮後期社会史研究』늘함께、原載『釜山大論文集』人文社会科学篇三一、一九八一年

水野直樹(二〇一八)「近代朝鮮戸籍における『賤称』記載と衡平社の活動」『部落解放研究』二〇八

*宮嶋博史(二〇〇三)「朝鮮時代の『身分』身分制概念에 대해」『大東文化研究』四二

村山智順(一九三二)『朝鮮の巫覡』朝鮮總督府

山内弘一(一九九七)「李朝後期の戸籍編成について」武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道丹城郡における社会動態の研究II』学習院大東洋文化研究所(調査研究報告三三)

——(二〇〇二)「学習院大学図書館所蔵昌寧県戸籍大帳について」武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道における社会動態の研究—学習院大学蔵朝鮮戸籍大帳の基礎的研究(4)—』学習院大学東洋文化研究所(調査研究報告五一)

山内民博(二〇〇一)「忠清監營『詞訟録』について」『東アジア—歴史と文化—』一〇

——(二〇〇二)「学習院大学蔵慶尚道安義県戸籍大帳について」武田幸男編『朝鮮後期の慶尚道における社会動態の研究—学習院大学蔵朝鮮戸籍大帳の基礎的研究(4)—』学習院大学東洋文化研究所(調査研究報告五一)

*——(二〇〇三)「19世紀慶尚道安義県戸籍大帳에記載된

- 柳器匠에 대하여 (19世紀慶尚道安義県戸籍大帳に記載された柳器匠について) 『大東文化研究』四二
- 〔二〇〇四〕「日本所在の朝鮮「屠漢戸籍」について」『資料学研究』(新潟大学現代社会文化研究科)一
- 〔二〇〇五〕「19世紀朝鮮の巫夫と巫女——慶尚道安義県戸籍大帳の分析から——」『資料学研究』二
- 〔二〇〇六a〕「朝鮮戸籍大帳の寺・僧把握——慶尚道安義県戸籍大帳の分析から——」『環日本海研究年報』一三
- 〔二〇〇六b〕「19世紀朝鮮郷村社会と幼学・士族—安義県戸籍大帳の分析から—」『平成16年度〜平成19年度科学研究費補助金 基盤研究(B)「朝鮮近世士族の社会的性格に関する総合的研究」研究成果報告書』(研究代表: 吉田光男)、二〇〇八年
- 〔二〇〇九a〕「一七世紀初慶尚道蔚山府戸籍大帳と降倭」『日韓相互認識』二
- 〔二〇〇九b〕「朝鮮後期戸籍大帳僧戸秩及び新式戸籍僧籍の性格」(上)『資料学研究』六
- 〔二〇一〇〕「朝鮮後期戸籍大帳僧戸秩及び新式戸籍僧籍の性格」(下)『資料学研究』七
- * 〔二〇一三〕「建陽・光武期 僧籍斗 屠漢籍斗の性格」『韓国学研究』(仁荷大学校韓国学研究所)二九
- 〔二〇一四a〕「屠牛と禁令—19世紀朝鮮における官令をめぐる—」『關尾史郎編「環東アジア地域の歴史と情報」』知泉書館
- 〔二〇一四b〕「一九世紀末二〇世紀初朝鮮における戸口調査と新式戸籍 地方における認識と対応」『朝鮮史研究会論文集』五二
- 〔二〇一五〕「19世紀朝鮮における屠漢・白丁集団の役と組織」『環日本海研究年報』二二
- 〔二〇一八〕「朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的検討(3)——黄海道鳳山郡僧屠戸籍冊——」『資料学研究』一五
- * 楊尚弦(一九九五)「韓末庖肆運營斗 庖肆稅收取構造」『韓國文化』(ソウル大)一六
- * 楊普景(一九九六)「『戸口総数』解題」『戸口総数』ソウル大学校奎章閣
- 吉田光男(一九八八)「商業史研究から見た朝鮮の近世と近代—李朝後期の經濟構造をめぐる—」中村哲・堀和生・安秉直・金泳鎬編『朝鮮近代の歴史像』日本評論社
- 〔一九九七〕「一六三三年『漢城府北部戸籍』にみえる身分標識と身分職役」武田幸男編『朝鮮社会の史的展開と東アジア』山川出版社
- 〔一九九八〕「朝鮮の身分と社会集団」『岩波講座世界歴史一三』岩波書店
- 〔二〇〇二〕「士族と両班のあいだ—歴史の時間・文化の時間—」『韓国朝鮮の文化と社会』一
- 〔二〇一〇〕『近世ソウル都市社会研究—漢城の街と住民—』草風館
- * 李榮薫(一九八八)「朝鮮後期社会經濟史」한길사
- * 〔二〇〇四〕「朝鮮時代の主戸—挾戸關係 再論」『古文書研究』二五
- * 李榮薫・安承俊(一九九六)「1538年安東府周村戸籍断片」『古文書研究』八
- 李憲昶(二〇〇四)『韓國經濟通史』(須川英徳・六反田豊監訳)法政大学出版社
- * 李光麟(一九五五)「号牌考」『庸齋白樂濬博士還甲記念 国学論叢』思想界社
- * 〔一九六二〕「李朝後半期の寺刹製紙業」『歴史学報』一七・一八
- * 李鍾英(二〇〇三)「僧人号牌考」同著『朝鮮前期社会經濟史研究』해안, 原載『東方学志』六、一九六三年
- * 李樹健(一九七二)「朝鮮初期戸口研究」『嶺南大学校論文集』五
- * 李俊九(一九九三)「朝鮮後期身分職役變動研究」一潮閣

- * — (一九九七 a) 「18・19世紀身分制變動趨勢와 身分持續性의 傾向」 『韓國文化』一九
- * — (一九九七 b) 「朝鮮後期 白丁의 存在様相—大邱府 西上面 路下里 白丁部落을 中心으로—」 『大丘史學』五三
- * — (一九九八 a) 「朝鮮後期 慶尚道 丹城地域 白丁의 存在様相—丹城帳籍을 中心으로—」 『朝鮮史研究』七
- * — (一九九八 b) 「朝鮮前期 白丁의 犯罪相과 齊民化 施策」 『大丘史學』五六
- * — (二〇〇〇 a) 「朝鮮中期 編戶白丁의 存在와 그性格」 『韓國中世史論叢—李樹健教授停年紀念』論叢刊行委員會
- * — (二〇〇〇 b) 「朝鮮時代 白丁의 前身 楊水尺、才人、禾尺—그 내력과 삶의 모습을 中心으로—(その來歴と生活の姿を 中心に)」 『朝鮮史研究』九
- * — (二〇〇一) 「朝鮮後期 마을을 이루고 산 고리白丁의 存在様相—大丘府 戶口帳籍을 中心으로—」 『朝鮮史研究』一〇
- * — (二〇〇二) 「朝鮮前期 白丁의 習俗과 社會經濟的位置」 정만조의 編 『朝鮮의 政治와 社會』集文堂
- * — (二〇〇三) 「朝鮮前期 白丁의 赴防과 軍役與否에 관한 檢討」 『仁荷史學』一〇
- * — (二〇〇八) 「大韓帝國期 屠漢(白丁)의 戶口様相과 社會經濟的 処置」 『大丘史學』九二
- 李成市 (一九九八) 「蔚珍鳳坪新羅碑の基礎的研究」同著『古代東アジアの民族と國家』岩波書店、原載『史學雜誌』九八—六、一九八九年
- 李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編(二〇一七) 『世界歴史大系 朝鮮史』1 山川出版社
- 李能和(一九一八) 『朝鮮仏教通史』上編・中編・下編、新文館(漢文)(一九二七 a) 『朝鮮巫俗考』『啓明』一九
- * — (一九二七 b) 『朝鮮解語花史』東洋書院
- * 李逢春(一九九九) 「朝鮮時代の 僧職制度」 『韓國仏教史』二五
- * — (二〇〇〇) 「朝鮮仏教의 都摠撰制度와 그性格」 泗溟堂紀念事業會編 『泗溟堂惟政』知識産業社
- * — (二〇一五) 『朝鮮時代仏教史研究』민족사
- * 劉承源(一九八七) 「朝鮮初期의 『身良役賤』階層」同著『朝鮮初期身分制研究』乙酉文化社、原載『韓國史論』(ソウル大 學校)一、一九七三年
- * 柳尚弦(一九九五) 「韓末庖肆運營과 庖肆稅收取構造」 『韓國文化』(ソウル大)一六
- * 呂恩暎(一九八七 a) 「朝鮮後期山城의 僧軍摠撰」 『大丘史學』二八
- * — (一九八七 b) 「朝鮮後期大寺刹의 摠撰」 『嶺南史學』三
- * 林學成(一九九三) 「朝鮮時代の 巫稅制度와 그 實態」 『歷史民俗學』三
- * — (一九九五) 「朝鮮後期 私奴婢의 身分變動相에 관한 一研究—17・18世紀 丹城戶籍의 事例分析」 『仁荷史學』三
- * — (二〇〇四) 「朝鮮後期慶尚道丹城縣戶籍을 통해 본 巫堂의 存在様態—巫夫(花郎) 朴進明 一家의 事例을 中心으로—」 『大東文化研究』四七、
- * — (二〇〇五) 「現存 16・17世紀戶籍大帳의 特徵들과 新發見 1898年度『濟州牧丙午式戶籍大帳』断片」 『古文書研究』二六
- * — (二〇〇八) 「17世紀前半 戶籍資料를 통해 본 歸化野人의 朝鮮에서의 生活様相」 『古文書研究』三三

論文の内容の要旨

論文題目 一七～一九世紀朝鮮の周縁的社会集団に関する研究

——朝鮮戸籍大帳と僧・白丁——

氏名 山内 民博

本論文は17世紀から19世紀にかけての朝鮮社会の変化を、僧と白丁という周縁的な社会集団に注目し戸籍史料を中心に検討したものである。

朝鮮時代の身分制（国家的社会編成）は奴婢を賤とする良賤制が基本であり、良は軍役免除特権をもつ両班・士族と、軍役・良役を負担する常民に大きくわかれる。現存する17世紀以降の戸籍を利用した研究では、18世紀後半から19世紀にかけて戸籍上で奴婢戸が急減する一方で両班戸が激増するという変化が提示された。この変化は郷村社会研究における士族支配体制の動揺と新興富民層の成長という議論と重なり、また1894年の甲午改革のなかで奴婢制の廃止が宣言されたこととも結びついて、19世紀末にかけて従来の身分制は解体していったという歴史像が定着した。しかしながら、国家的な身分編成の枠組みに収まらない、周縁的な位置に置かれた集団——たとえば、僧や白丁（屠漢・皮漢などとも称され、戸籍上の柳器匠・皮匠と重なる生業集団）をどう位置づけるのかという問題については、検討がさほど進んでいない。従来、僧や白丁は漠然と奴婢などとともに賤民とみなされることが多く、あるいは白丁については良身分である賤役負担者（身良役賤層）と理解されることもあった。しかし、そもそも人身的隷属を条件とする奴婢と、広義の生業集団である僧や白丁とは性格が異なり、公的に僧や白丁、あるいは柳器匠・皮匠が「賤」と規定されたことはなかった。また、柳器匠・皮匠のなかには良身分の者だけでなく賤身分（奴婢）の者もあり、良賤制を前提にした身良役賤という概念でもかれらの性格をとらえきれない。

そこで、本論文ではかれら僧と白丁を周縁的な社会集団という視角からとりあげ、つぎの2点を課題とした。第一の課題は17世紀から19世紀にかけての朝鮮において戸籍が僧および白丁——柳器匠・皮匠という集団をどう把握し、位置づけていたのか、歴史的に明ら

かにすることであり、第二の課題は、戸籍上の位置づけとその変化をふまえ、僧および柳器匠・皮匠が社会のなかでどのような存在であったのか、生業と公的負担ならびに公権力との関係、集団・組織の特徴、およびかれらへの社会的認識といった側面から分析することであった。

第一の課題について検討の結果をまとめるなら、つぎのようになろう。

朝鮮王朝は一貫して戸籍による民の把握をはかっていたが、19世紀の戸籍において独特な位相を示すのが僧と柳器匠・皮匠であった。慶尚道安義県の19世紀の戸籍大帳をみると、戸籍上の戸は大きく僧戸と僧戸ではない一般の戸にわかれ、両者は編成方法、戸の書式が異なっていた。また、一般戸のなかでは柳器匠戸が独特で、柳器匠戸からのみなる村の存在、柳器匠の妻だけに用いられる姓氏呼称など、ほかの職役戸と区別される特徴を示す。都已上条の職役記事においても、僧と柳器匠は最末尾に置かれ、ほかの職役と区別されていた。18世紀中葉以降の大丘府戸籍大帳でも同様の特徴が僧と皮匠にみられた（以上、主として第一章）。

以上のような特徴が歴史的にどう推移してきたのか、わずかな断片以外戸籍史料の残っていない朝鮮時代前期にまでさかのぼると、まず、僧は朝鮮時代前期には戸籍の対象ではなかった。中央・地方の官衙は寺・僧に労役や物品の納入を課しており、一定の把握はなされていたとみられるが、国家が僧をほかの民とともに一元的に、また継続的に把握するということはなかった。柳器匠・皮匠につながる白丁も一五世紀までは戸籍に登載されていなかったようである。国家は、流移しながら柳器製造や狩猟にあたる白丁に対し斉民化・農耕民化の対象として積極的に定住と戸籍登載をはかった。しかし、実態としては農耕民化はさほど進まず、地方官衙は柳器製造や狩猟といった従来からの生業にもとづいて、かれらを柳器匠や皮匠という工匠として編成していった。一六世紀の戸籍断片には白丁のあらわれる例があるが、柳器匠・皮匠はみえず、戸籍による把握は部分的なものだったと考えられる（第二章）。

僧と柳器匠・皮匠が戸籍に登載されるようになったのは、17世紀後半、1670年代以降のことであった。五家統法施行にともなう戸籍制度改革のなかで、従来、戸籍が対象としていなかった、あるいは戸籍の対象ではあったが登載の困難であった集団にまで把握がおよんだのである。この時期の戸籍の編成原理として明瞭なのは良賤制であり、良身分の戸主と賤身分（奴婢）の戸主とでは、姓の有無・祖先記載方法など書式が異なっていた。良賤制は僧にも適用されており、戸籍上には良僧と奴僧がいた。寺庵に住み妻帯しない僧

は、編成上、当初から独自の特徴をもってはいたが、そうした僧であっても良賤制の枠組みのなかに包摂されていたのである。同様に柳器匠・皮匠にも良身分の者と賤身分の者がいて、ほかの工匠と戸籍上のあつかいに差異はなかった（第三章）。

18世紀中葉以降になると、戸籍上で奴婢を戸主とする戸の数が激減するとともに、書式上の良賤制的差異も接近・同一化していった。さらに、19世紀末、奴婢制廃止後の新式戸籍にいたると、戸籍の書式は明瞭に規格化・一元化されたものになった。こうした記載の一元化傾向は奴婢制の解体・廃止、身分的役制の変容に応じて生じた変化であったと考えられる。

上記のように良賤制が崩れていくなか、あらたに僧や柳器匠・皮匠をほかの職役と区別する傾向が生じていた。かれらにも良賤制解体の流れは及び、18世紀中には奴婢である僧・柳器匠・皮匠はみられなくなっていたが、変化はそれだけではなかったのである。当初から僧は戸籍上で独特な特徴をもってはいたが、18世紀中葉以降になると、師僧の記載をはじめとする僧固有の記載書式が登場し、都已上条でもその独自性が強まっていた。従来はほかの工匠と同じようにあつかわれていた柳器匠・皮匠も、18世紀中葉ころからは、都已上条での位置や妻の姓氏称において明瞭にほかの工匠とは区別される地域がでてきた。良賤制による区分、あるいは良賤一元化の論理とは異なる次元での差異という意味で、かれらは戸籍上において周縁的な存在として編成されることになったといえる。ただし、僧や柳器匠・皮匠の記載方式には邑によって違いがみられた。かれらの周縁的編成は国家的な方針として一律に進められたわけではなく、各々の地域における社会関係の変化のなかから生まれてきたものと考えられる（以上、第四章・第六章）。

19世紀末の新式戸籍の時期になると、全国各地で僧・屠漢を一般の民と別途に編成した僧籍と屠漢籍が登場する。これは身分制の残滓というよりも、18世紀中葉以降、地域ごとに進んでいた周縁的編成を公式化するものであり、朝鮮時代後期社会の変化の延長線上にあったとみることができよう（第七章）。

第二の課題はかれらの社会的な存在様相の解明であった。

まず、18世紀後半以降の柳器匠・皮匠の社会的な姿を公的負担と生業の側面からみると、柳器匠は柳器を、皮匠は皮物を製造・納入する工匠であったが、ときに柳器匠が皮物を、皮匠が柳器を納めるなど、相互に役内容が重なることがあった。また、柳器匠役・皮匠役をになう生業集団として屠漢・皮漢・白丁が登場することもあった。柳器匠・皮匠・屠漢・皮漢・白丁は、柳器製造・屠畜・製皮などといった生業と何らかに関わり、完全にで

はないにせよ、重なりあう集団だったようである。ただし、屠牛に関しては禁令があったため、牛皮・牛肉などの官衙への供給は皮匠への役賦課という形でなく、禁令の例外として設けられた公的な庖厨システムによっていた。屠漢たちは禁令下において公権力と結びつくことによって屠牛に従事していたのである。

柳器匠・皮匠の職役は17世紀後半期には一定の流動性があり世代間での職役移動もみられたが、18世紀後半以降になると職役の世襲傾向が強まった。かれらはしばしば集住し、同じ集団内で緊密な婚姻関係を結んでおり、構成員に対する危害には集団で報復するなど、組織的紐帯の強さもみられた。また、同じ時期、柳器匠・皮匠ないし屠漢・白丁を「賤類」などとよんで賤視する表現が史料の上でめだつようになる。これは奴婢を賤とする良賤制が崩れていくなかで、かわって柳器匠・皮匠・屠漢・白丁をはじめとする特定生業集団を賤視する観念が朝鮮社会に強まっていたあらわれであり、戸籍上の周縁化や職役の世襲化と併行するものだったと考えられる（以上、第五章）。

僧の公的負担をみると、18世紀前半までは個別的な身役を課された僧も存在したが、その後、個別的な身役賦課はなくなり、寺への賦課（義僧防番銭、雑役など）に収斂していた。寺・僧の公的負担は、原則として個人に課される通常の役負担とは異なるものだったといえる。こうした諸役に対応するため、王室・宮房、あるいは官衙と個別的な関係をむすんで、その保護下に役の減免をはかる寺もあらわれた。一方で、寺内には居士・舎堂が含まれることもあった。元来、かれらは非僧・非俗の仏道修行者であったが、しだいに寺を拠点に各地を移動する芸能民としての性格をもつようになっていた。寺・僧は居士・舎堂と密接な関係をもっており、寺庵の再建・修築のための勧進（乞粒）が居士集団の傀儡興行をつうじてなされることもあった。19世紀後半には、僧を巫覡・倡優と同列にみる意識もみられるようになる。寺庵・僧は王権とかかわると同時に芸能民ともむすびつく独特な存在だったのであり、その位相が戸籍における周縁性にも反映されたのであろう。視点を変えれば、朝鮮王朝社会において寺は戸籍——公的な把握においても、社会的関係においても独自の空間として存在しつづけていたといえる（第六章）。